

3-2

保護者の家庭学習支援力と 子どもの総合学力との関係

Benesse 教育研究開発センター 小林 洋

はじめに

本章第1節では、教師の家庭学習指導力や家庭学習と授業との連動力と子どもの家庭学習力や教科学力との関係を検証した。本節では、ほぼ同様な手法と手順に従って、「保護者の家庭学習支援力が高いほど、その保護者の子どもの家庭学習力や教科学力は高い」という今回の「調査の作業仮説2」を検証するとともに、学年段階による有効な働きかけの違いを探り、保護者への子どもに対する働きかけの具体的な指針を提供することを目指したい。

1 保護者の家庭学習支援力と教科学力および家庭学習力との関係

1 家庭学習支援の多くの項目で、保護者の働きかけの高いほうが、 子どもの教科学力と家庭学習力も高い

図表3-2-1は、保護者の家庭学習支援力の各項目と子どもの教科学力(国語・算数/数学の平均正答率)ならびに家庭学習力との関係を示したものである。保護者を家庭学習支援力を問う各設問に対して、「あてはまる」「まああてはまる」と回答した肯定群と、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答者した否定群の2群に分け、それぞれに属する子どもの2教科平均正答率と家庭学習力平均スコアを対比しその差異を示している。「検定」欄の記号は、その差異が統計的にどの程度有意であることを示し、「**」「*」は、それぞれ1%未満と5%未満の危険水準で有意であることを示している(以下の図表についても同様)。網掛けは、とくに教科学力と家庭学習力ともに1%の危険水準で統計的に有意な差があるものを表している。この図表から、小5生・中2生ついてともに、多くの項目で保護者の働きかけの高いほうが、子どもの教科学力と家庭学習力いずれにも有位に高いことが認められる(25項目中、小5生16項目、中2生17項目)。また、網掛けした項目のうち、半数以上が小5生・

中2生で共通しているが、どちらか一方のみに網掛けが入っているものもある。例えば、「授業の復習をきちんとさせている(問5-2)」「学校の宿題は、期日までに必ずやり終えるようにさせている(問5-3)」「テストには、計画的に準備してのぞむようにさせている(問5-4)」「できるだけ栄養のバランスのよい食事をとらせるようにしている(問5-6)」等の14項目が小5生・中2生に共通して教科学力と家庭学習力ともに差が大きいものとなっている。また、小5生のみにも網掛けが入るものが「家でする勉強も頑張るように応援している(問5-10)」「いろいろな誘惑に負けないで勉強するようにアドバイスしている(問5-16)」等の3項目、他方中2生のみにも網掛けが入るものが「授業の予習をきちんとさせている(問5-1)」「勉強でわからないときや困ったときには相談に乗っている(問5-11)」等の3項目となっている。これらは、学年段階による保護者の働きかけの子どもへの影響の違いを表していると考えられる。

図表 3-2-1 保護者の家庭学習支援力と子どもの教科学力・家庭学習力との関係

設問の カテゴリー	項目 番号	設 問 内 容	保護 者群	小 5						中 2					
				教科学力			家庭学習力			教科学力			家庭学習力		
				平均	差異	検定	平均	差異	検定	平均	差異	検定	平均	差異	検定
A 学習習慣の確立支援	問5-1	授業の予習をきちんとさせている。	肯定	73.0	1.8	*	2.97	0.13	**	72.7	5.2	**	2.72	0.21	**
			否定	71.2			2.83			67.5			2.51		
	問5-2	授業の復習をきちんとさせている。	肯定	73.6	4.0	**	2.95	0.17	**	72.0	5.2	**	2.70	0.22	**
			否定	69.5			2.77			66.8			2.48		
	問5-3	学校の宿題は、期日までに必ずやり終えるようにさせている。	肯定	72.2	14.7	**	2.88	0.47	**	70.3	9.4	**	2.59	0.22	**
否定			57.5	2.41			60.9			2.38					
問5-4	テストには、計画的に準備してのぞむようにさせている。	肯定	73.7	3.4	**	2.95	0.15	**	71.4	8.3	**	2.63	0.20	**	
		否定	70.3			2.81			63.1			2.42			
問5-5	授業に必要な教科書やノート類は、前日の夜のうちに準備させている。	肯定	72.0	3.2	*	2.89	0.18	**	69.2	1.0		2.61	0.13	**	
		否定	68.7			2.71			68.2			2.48			
B 生活習慣の確立支援	問5-6	できるだけ栄養のバランスのよい食事をとらせるようにしている。	肯定	72.2	5.5	**	2.89	0.19	**	69.3	3.6	**	2.58	0.10	**
			否定	66.7			2.70			65.7			2.48		
	問5-7	早寝早起きなど、規則正しい生活をするようにさせている。	肯定	71.8	1.7		2.88	0.10	**	69.0	0.8		2.59	0.13	**
			否定	70.1			2.78			68.2			2.46		
	問5-8	勉強するときの部屋の照明や姿勢に気をつけさせている。	肯定	72.3	3.7	**	2.89	0.15	**	69.6	2.6	**	2.60	0.13	**
否定			68.6	2.75			67.0			2.47					
問5-9	家で勉強するのに必要な図書や資料は、自分で整理整頓するようにさせている。	肯定	71.9	1.4		2.88	0.06	*	69.0	0.7		2.59	0.10	**	
		否定	70.5			2.82			68.3			2.48			
D 心理的な支援	問5-10	家でする勉強も頑張るように応援している。	肯定	71.9	3.7	**	2.88	0.17	**	69.1	2.5	*	2.58	0.15	**
			否定	68.2			2.71			66.7			2.43		
	問5-11	勉強でわからないときや困ったときには相談に乗っている。	肯定	71.8	4.3	*	2.87	0.11		69.5	3.3	**	2.59	0.12	**
			否定	67.5			2.76			66.2			2.47		
	問5-12	子どもがリラックスできるようにアドバイスをしている。	肯定	71.8	0.7		2.88	0.05	*	69.5	2.1	**	2.58	0.06	**
否定			71.1	2.83			67.4			2.52					
問5-13	ふだんから新聞やテレビニュースをもとに、社会の動きについて一緒に話し合うようにしている。	肯定	72.7	2.8	**	2.91	0.11	**	70.0	3.2	**	2.59	0.09	**	
		否定	69.9			2.80			66.7			2.51			
C 自律性の育成支援	問5-14	苦手な教科も家でしっかり勉強して得意になるように励ましている。	肯定	72.2	1.7	*	2.89	0.08	**	69.6	2.4	**	2.60	0.14	**
			否定	70.4			2.81			67.1			2.46		
	問5-15	テレビやラジオなどをつけないで集中して勉強するようにさせている。	肯定	73.2	4.3	**	2.91	0.12	**	69.9	2.2	**	2.63	0.16	**
			否定	68.9			2.79			67.6			2.48		
	問5-16	いろいろな誘惑に負けないで勉強するようにアドバイスをしている。	肯定	72.4	2.9	**	2.91	0.14	**	69.4	1.7	*	2.60	0.11	**
否定			69.5	2.76			67.7			2.49					
問5-17	家でする勉強に、やりとげる頑張り目標を決めるようにアドバイスしている。	肯定	71.7	0.3		2.91	0.10	**	69.0	0.4		2.63	0.14	**	
		否定	71.3			2.80			68.6			2.49			

次ページにつづく

図表3-2-1 保護者の家庭学習支援力と子どもの教科学力・家庭学習力との関係（つづき）

設問の カテゴリー	項目 番号	設 問 内 容	保護 者群	小 5						中 2					
				教科学力			家庭学習力			教科学力			家庭学習力		
				平均	差異	検定	平均	差異	検定	平均	差異	検定	平均	差異	検定
E 教材・ 体験の 提供	問5-18	自分でやれる適切な教材を与えて授業の理解や定着に利用させている。	肯定	74.6	6.5	**	2.95	0.19	**	70.1	2.8	**	2.64	0.17	**
			否定	68.1			2.76			67.3			2.47		
	問5-19	休日を利用して、体験型学習に参加させている。	肯定	74.5	3.8	**	3.00	0.17	**	69.9	1.1		2.75	0.20	**
			否定	70.8			2.83			68.7			2.54		
	問5-20	ふだんから本や辞書類を勉強に活用させている。	肯定	75.6	7.7	**	2.95	0.16	**	71.7	4.7	**	2.66	0.16	**
			否定	67.9			2.79			67.0			2.50		
	問5-21	コンピュータを使った教材やインターネットを学習に活用させている。	肯定	76.9	7.6	**	2.99	0.19	**	72.9	6.3	**	2.62	0.09	**
			否定	69.4			2.81			66.7			2.53		
F 学習環境 条件の 整備	問5-22	家では、子どもが落ち着いて勉強できる静かな環境づくりをこころがけている。	肯定	72.8	3.0	**	2.92	0.14	**	70.2	3.6	**	2.61	0.12	**
			否定	69.7			2.78			66.6			2.49		
	問5-23	学校の図書館だけでなく、地域の図書館や資料館なども勉強に活用させている。 (地域に該当の施設がない場合は、4を選ぶ)	肯定	74.8	5.1	**	2.96	0.14	**	71.0	2.7	**	2.68	0.15	**
			否定	69.7			2.81			68.2			2.53		
	問5-24	勉強するスペースや教材を置いておく場所を確保している。	肯定	72.2	4.9	**	2.89	0.18	**	69.5	4.6	**	2.58	0.14	**
			否定	67.3			2.71			64.9			2.44		
	問5-25	学校などから配付された「家庭学習の手引き」を活用している。 (該当のものがいない場合は、4を選ぶ)	肯定	71.0	-0.8		2.92	0.08	**	69.0	0.0		2.62	0.07	**
			否定	71.8			2.84			68.9			2.55		

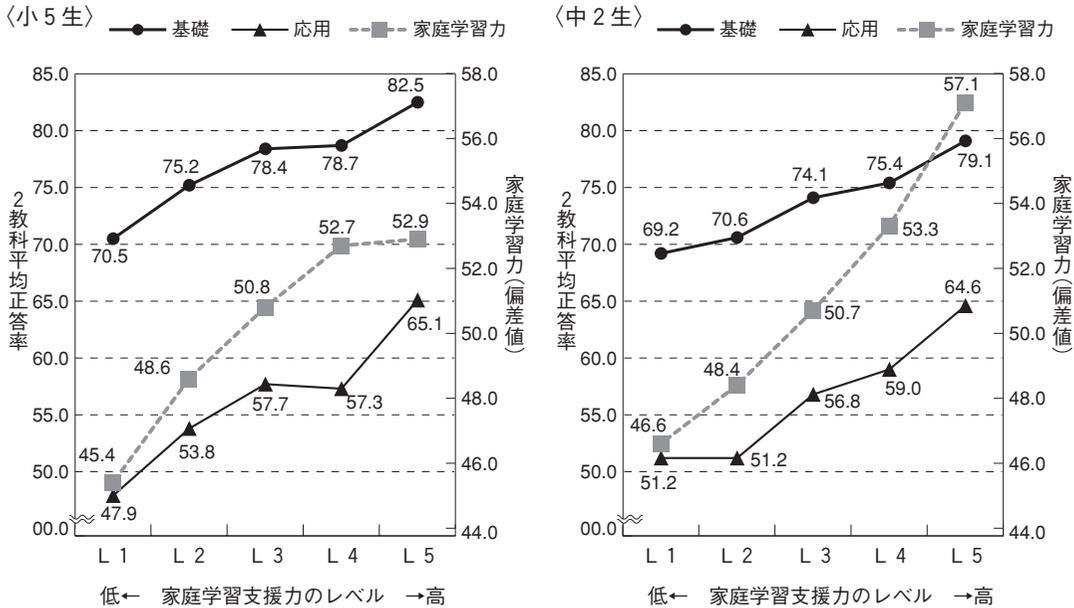
注) 家庭学習支援力を問う各設問に対して、「あてはまる」「まああてはまる」と回答した肯定群と、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と回答した否定群の2群に保護者を分け、それぞれに属する子どもの教科学力(2教科平均正答率)と家庭学習力総合スコア(偏差値)を対比しその差異を示している。網掛けは、教科学力、家庭学習力ともに両群の差が危険水準1%未満の統計的な有意なものを表している。なお、設問のカテゴリーとA~Dの表示の順番は当初の概念モデルに沿ったものを示している。

図表3-2-2は、保護者の家庭学習支援の働きかけの状況(図表2-5-4)を保護者各人の回答に基づいてスコア化し、さらにL1からL5の5段階のレベルに分け、この各レベルに属する子どもの教科学力(左目盛り)と家庭学習力(右目盛り)との関係を示したものである。このレベルが高いほど、保護者は、上の図表で示しているような家庭学習支援の働きかけを多面的に行っていることを意味している。小5生・中2生ついても、応用で部分的に横ばいになる状況が見られるものの、保護者の家庭学習支援の働きかけのレベルが高いほど、子どもの教科学力・家庭学習力はともに高い傾向が顕著に表れている。この結果は、「保護者の家庭学習支援力が高いほど、その保護者の子どもの家庭学習力ならびに教科学力は

高い」という今回の「調査の作業仮説2」を基本的に検証するものとなっている。

教科学力では、小5生・中2生ついても、応用のほうが基礎よりもL1とL5の差が大きい。また、家庭学習力は、小5生については、L4→L5で頭打ち傾向が現われているが、中2生については反対に、L4→L5の間の差が最も大きく開いている。L1とL5の差も、中2生>小5生の関係がある。このことは図表3-2-1で、保護者の働きかけによる家庭学習力の差異が、中2生についてはすべての項目について危険率1%未満の水準の有意差を示していることと対応している。これらのことから、一般的に小5段階以上に、中2段階の子どもへの保護者の働きかけが有効なことがわかる。

図表 3-2-2 保護者の家庭学習支援力のレベルと子どもの教科学力・家庭学習力との関係



注) 家庭学習支援力のレベルは、家庭学習支援力を問う各項目の回答スコアの合計に基づき、上位から7%、24%、38%、24%、7%の割合に準ずる形でL5からL1の5つの段階を設定し、それぞれの保護者に属する子どもの2教科平均正答率(左目盛り)と家庭学習力(偏差値)(右目盛り)を示している。

2 保護者の家庭学習支援力の再カテゴリー化(因子分析)

前項では、家庭学習支援の総合的な働きかけを行っている保護者の子どもほど、教科学力や家庭学習力が高いことを見たが、では、保護者の家庭学習支援の働きかけのどのような因子が教科学力や家庭学習力にどの程度影響を及ぼしているのだろうか。このことを探るため、今回の調査で設定した家庭学習支援力に関する25の取り組みに対する保護者の回答状況に改めて因子分析をかけ、各因子別のスコアと教科学力や家庭学習力との関係を調べることにしたい。

図表 3-2-3 は、小5生、中2生の保護者計7155名の回答を元に行った因子分析に基づき、図表 3-2-1 に示す項目の再カテゴリー化を行ったものである。詳細は省くが、因子分析の結果、「因子1：心理的支援」「因子2：生活習慣確立支援」「因子3：教材・体験の活用」「因子4：学習習慣確立支援」「因子5：学習環境条件整備」「因子6：学校社会適応」(固有値の大きい順)の6つの因子が抽出された。各項目は、因子負荷量(各

因子と項目との相関関係の強さ)の降順に並び替え、当初の概念モデルにおけるカテゴリーとの対応を合わせて示している。当初の概念モデル(図表 2-1-6、図表 3-2-1)で「C. 自律性の育成支援」に分類していた4項目のうち、2項目(「苦手克服」と「動機付け」)が、「因子1：心理的支援」に分かれ、残り2項目(「ながら勉強の抑止」と「誘惑に打ち克つ心」)が「因子5：学習環境条件整備」に分かれたこと、また、「A. 学習習慣の確立支援」としていた5項目のうち2項目(「授業準備」「宿題習慣」)が「因子6：学校社会適応」に分離するなど若干の入れ替わりが生じている。しかし、「B. 生活習慣確立支援」はそのまま「因子2」の項目となっている。全体として当初の概念モデルの項目との対応は25項目中16項目となっている。

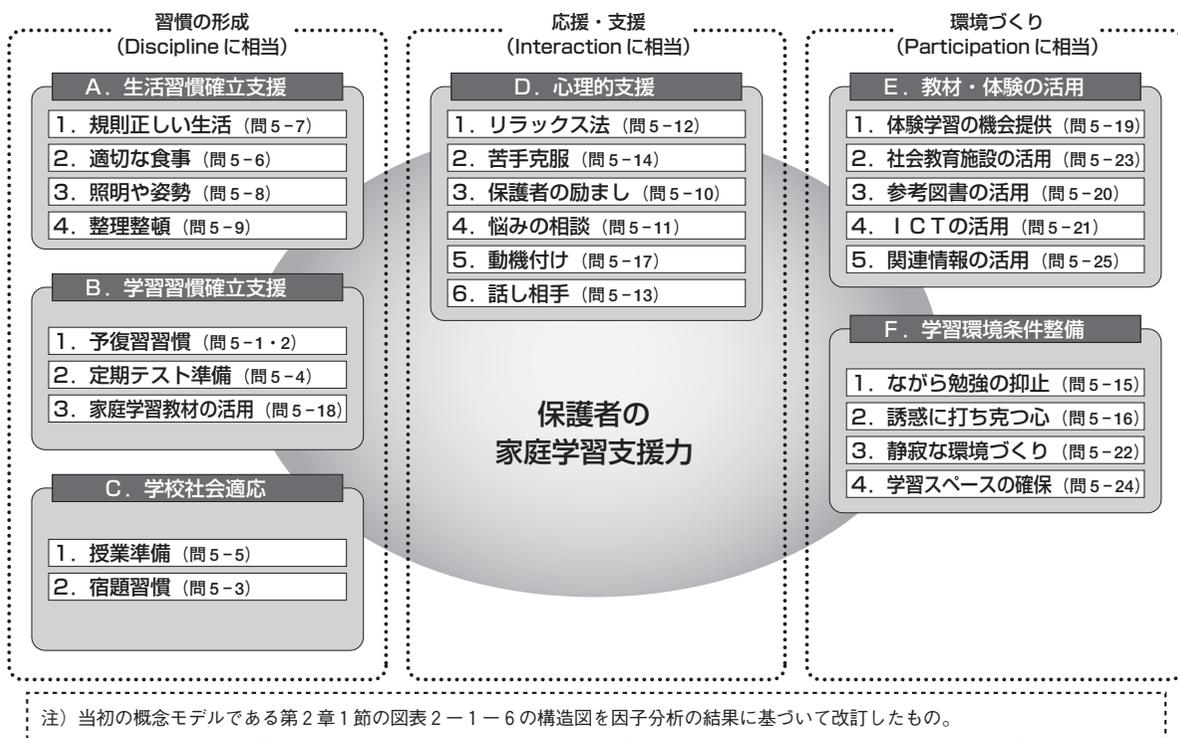
この因子分析の結果に基づき、第2章1節図表 2-1-6の当初の家庭学習支援力の構造モデルを改訂したものが図表 3-2-4である。

図表3-2-3 保護者の家庭学習支援力の再カテゴリー化の結果

抽出された因子 (新カテゴリー)	項目内容		当初のカテゴリー
因子1 心理的支援	リラックス法	12)子どもがリラックスできるようにアドバイスをしている。	D. 心理的な支援
	苦手克服	14)苦手な教科も家でしっかり勉強して得意になるように励ましている。	C. 自律性の育成支援
	保護者の励まし	10)家でする勉強も頑張るように応援している。	D. 心理的な支援
	悩みの相談	11)勉強でわからないときや困ったときには相談に乗っている。	D. 心理的な支援
	動機付け	17)家でする勉強に、やりとげる頑張り目標を決めるようにアドバイスしている。	C. 自律性の育成支援
	話し相手	13)ふだんから新聞やテレビニュースをもとに、社会の動きについて一緒に話し合うようにしている。	D. 心理的な支援
因子2 生活習慣 確立支援	規則正しい生活	7)早寝早起きなど、規則正しい生活をするようにさせている。	B. 生活習慣の確立支援
	適切な食事	6)できるだけ栄養のバランスのよい食事をとらせるようにしている。	B. 生活習慣の確立支援
	照明や姿勢	8)勉強するときの部屋の照明や姿勢に気をつけてさせている。	B. 生活習慣の確立支援
	整理整頓	9)家で勉強するのに必要な図書や資料は、自分で整理整頓するようにさせている。	B. 生活習慣の確立支援
因子3 教材・体験 の活用	体験学習の機会提供	19)休日を利用して、体験型学習に参加させている。	E. 教材・体験の提供
	社会教育施設の活用	23)学校の図書館だけでなく、地域の図書館や資料館なども勉強に活用させている。	F. 学習環境条件の整備
	参考図書の活用	20)ふだんから本や事典類を勉強に活用させている。	E. 教材・体験の提供
	ICTの活用	21)コンピュータを使った教材やインターネットを学習に活用させている。	E. 教材・体験の提供
	関連情報の活用	25)学校などから配付された「家庭学習の手引き」を活用している。	F. 学習環境条件の整備
因子4 学習習慣 確立支援	予復習習慣	1)授業の予習をきちんとさせている。	A. 学習習慣の確立支援
		2)授業の復習をきちんとさせている。	A. 学習習慣の確立支援
	定期テスト準備	4)テストには、計画的に準備してのぞむようにさせている。	A. 学習習慣の確立支援
家庭学習教材の活用	18)自分でやれる適切な教材を与えて授業の理解や定着に利用させている。	E. 教材・体験の提供	
因子5 学習環境 条件整備	ながら勉強の抑止	15)テレビやラジオなどをつけないで集中して勉強するようにさせている。	C. 自律性の育成支援
	誘惑に打ち克つ心	16)いろいろな誘惑に負けないで勉強するようにアドバイスしている。	C. 自律性の育成支援
	静寂な環境づくり	22)家では、子どもが落ち着いて勉強できる静寂な環境づくりをこころがけている。	F. 学習環境条件の整備
	学習スペースの確保	24)勉強するスペースや教材を置いておく場所を確保している。	F. 学習環境条件の整備
因子6 学校社会 適応	宿題習慣	3)学校の宿題は、期日までに必ずやり終えるようにさせている。	A. 学習習慣の確立支援
	授業準備	5)授業に必要な教科書やノート類は、前日の夜のうちに準備させている。	A. 学習習慣の確立支援

注) 因子分析の結果に基づいて家庭学習支援力の項目の再カテゴリー化を行ったもの。「リラックス法」「苦手克服」等の項目名称は、第2章1節の図表2-1-6に対応している。

図表 3-2-4 保護者の家庭学習支援力の構造モデル改訂版



3 保護者のカテゴリー別スコアと教科学力および家庭学習力との関係

図表3-2-5は、新しく抽出された因子ごとに項目のスコア化を行い、これに基づき、保護者を因子ごとに下位・中位・上位の3群に分け、対応する子どもの教科学力と家庭学習力のスコアを

対比したものである。小5生について「因子6：学校社会適応」の上位群が「-」となっているのは該当の群(偏差値60以上)に属する保護者が存在しないことを表している。

1 小5生では「教材・体験の活用」、 中2生では「学習習慣確立支援」の働きかけの影響度が最も大きい

この図表から、因子6についての小5生の結果を除き、小5生・中2生ともに、教科学力、家庭学習力いずれも、上位群>中位群>下位群の関係にあり、かつ上位-下位の差がすべて統計的に有意であることがわかる。また、上位-下位の差が最も大きいのは、小5生については、教科学力、家庭学習力ともに「因子3：教材・体験の活用」(=「体験学習の機会提供」「社会教育施設の活用」「参考図書の活用」「ICTの活用」「関連情報の活用」の合計スコア)、中2生については、「因子

4：学習習慣確立支援」(=「予復習習慣」「定期テスト準備」「家庭学習教材の活用」の合計スコア)となっている。

図表3-2-6は、家庭学習支援力の各因子を説明変数、教科学力または家庭学習力を目的変数として数量化I類の手法を適用し、目的変数に対する説明変数の影響度(アイテム・レンジ)を調べたものである。最も影響度の大きい因子は、小5生・中2生ともに、図表3-2-5で見た上位-下位の差が最も大きい因子と一致している。

図表3-2-5 家庭学習支援力各因子と子どもの教科学力および家庭学習力との関係

〈小5生〉

家庭学習支援力の抽出された因子		家庭学習支援力下位群	家庭学習支援力中位群	家庭学習支援力上位群	上位-下位	検定
		因子1 心理的支援	教科学力	49.4		
	家庭学習力	47.8	50.8	51.9	4.1	**
因子2 生活習慣確立支援	教科学力	48.2	50.8	51.4	3.2	*
	家庭学習力	48.7	50.6	52.3	3.5	**
因子3 教材・体験の活用	教科学力	46.9	50.7	53.4	6.5	*
	家庭学習力	47.9	50.3	54.8	6.9	**
因子4 学習習慣確立支援	教科学力	49.7	50.2	52.5	2.8	*
	家庭学習力	47.4	50.7	52.8	5.4	**
因子5 学習環境条件整備	教科学力	47.9	50.7	52.6	4.7	**
	家庭学習力	47.9	50.9	52.5	4.6	**
因子6 学校社会適応	教科学力	48.0	50.9	-	-	
	家庭学習力	46.8	51.2	-	-	
家庭学習支援力 総合スコア	教科学力	46.8	50.7	53.3	6.4	**
	家庭学習力	46.7	50.7	53.9	7.2	**

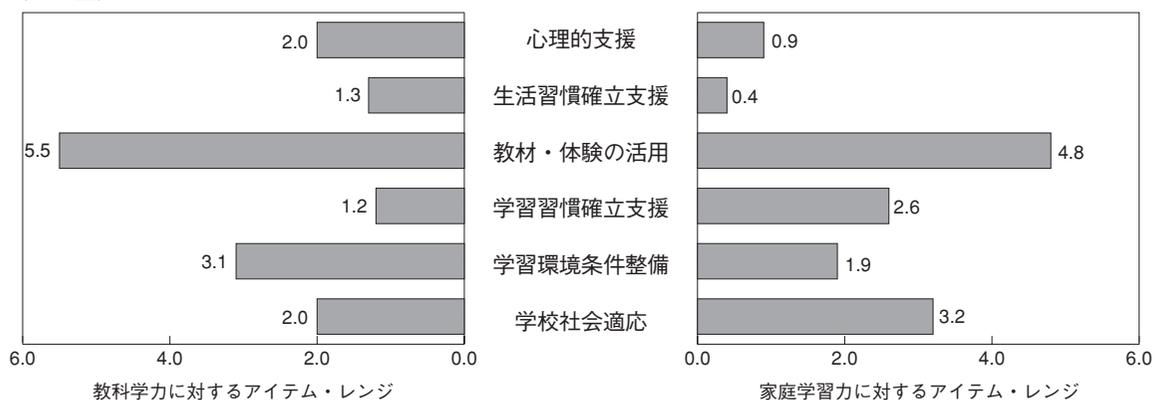
〈中2生〉

家庭学習支援力の抽出された因子		家庭学習支援力下位群	家庭学習支援力中位群	家庭学習支援力上位群	上位-下位	検定
		因子1 心理的支援	教科学力	49.5		
	家庭学習力	48.9	50.6	53.9	5.0	**
因子2 生活習慣確立支援	教科学力	49.3	50.6	51.6	2.3	**
	家庭学習力	48.1	50.6	52.9	4.8	**
因子3 教材・体験の活用	教科学力	48.5	50.6	52.9	4.4	**
	家庭学習力	48.2	50.6	54.1	6.0	**
因子4 学習習慣確立支援	教科学力	48.2	50.1	53.3	5.1	**
	家庭学習力	46.5	50.2	54.6	8.0	**
因子5 学習環境条件整備	教科学力	49.0	50.5	52.0	2.9	**
	家庭学習力	47.5	50.4	54.5	7.0	**
因子6 学校社会適応	教科学力	48.1	50.4	52.9	4.8	**
	家庭学習力	47.3	50.5	53.9	6.6	**
家庭学習支援力 総合スコア	教科学力	48.0	50.6	52.9	5.0	**
	家庭学習力	46.6	50.4	55.6	9.0	**

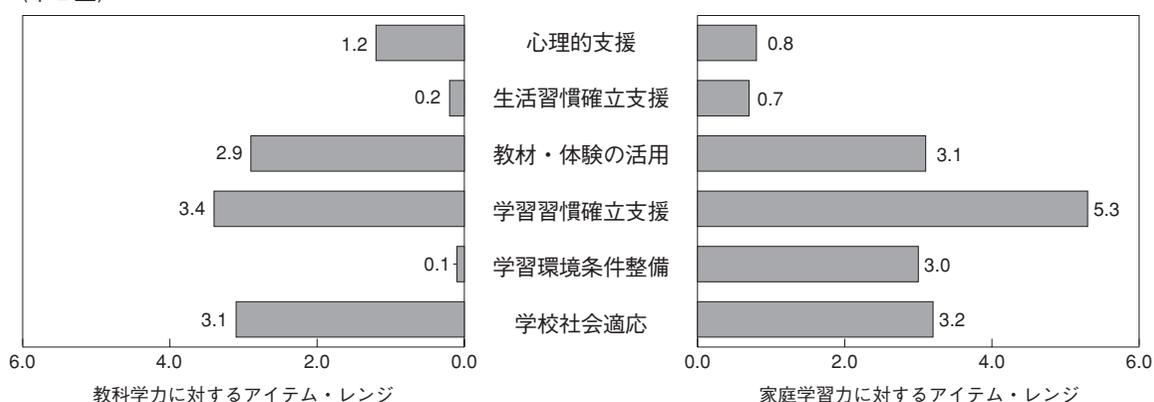
注) 家庭学習支援力の各因子(カテゴリー)ごとに保護者の回答状況に基づいて下位群(偏差値40未満)、中位群(偏差値40以上、60未満)、上位群(偏差値60以上)の3群に保護者を分類し、それぞれに対応する子どもの教科学力と家庭学習力スコア(偏差値)を対比したもの。「-」は該当の標本がないことを示す。

図表 3-2-6 家庭学習支援力各因子の子どもの教科学力、家庭学習力への影響度

〈小5生〉



〈中2生〉



注)数量化I類により、保護者の家庭学習支援力の各因子の子どもの教科学力と家庭学習力に対する影響度(アイテム・レンジ)を示した。アイテム・レンジについては、図表3-1-8の注記を参照。

次ページの図表3-2-7は、保護者の家庭学習支援力各因子の子どもの家庭学習力に対する影響度(アイテム・レンジ)を後者のカテゴリー別に見たものである。小5生については、図表3-2-6で見たように全体として「因子3：教材・体験の活用」の与えている影響が最も大きい。子どもの「C. 計画性」は「因子4：学習習慣確立支援」の影響が最も大きく、「D. 自律心」は、「因子6：学校社会適応」の影響が最も大きく現われている。中2生についても、上で見たように全体として「因子4：学習習慣確立支援」の影響が最も大きい。小5生の場合と同じく「A. 豊かな読書」ならびに「F. 社会的学び」は「因子3：教材・体験の活用」、「D. 自律心」は「因子6：学校社会適応」の働きかけにそれぞれ最も影響を受けていることがわかる。

子どもの家庭学習力の8つのカテゴリーのうち、保護者の家庭学習支援力の影響の受け方が小5生と中2生の間で顕著に異なるのは、「B. 達成感」「E. 自己マネジメント」「G. 自主的学習」「H. 成長意欲」の4つである。この4つについては、小5生では、保護者の「教材・体験の活用」(＝「体験学習の機会提供」「社会教育施設の活用」「参考図書の活用」「ICTの活用」「関連情報の活用」の合計スコア)の働きかけの影響がより大きく、中2生については「学習習慣確立支援」(＝「予復習習慣」「定期テスト準備」「家庭学習教材の活用」の合計スコア)の影響がより大きい。小5生の場合は、どちらかといえば、学校の勉強に直接向かわせるような働きかけよりも体験学習への参加(による概念形成の基盤の充実)や、本や事典類、ICTなどの多様な学習ソースに普段から

親しむことを促すような働きかけがより有効であり、他方、中2生の場合は、予復習や定期テスト準備および家庭学習教材の提供など、学校の勉強を直接促すような働きかけがより有効であることになる。ただし、このことは全体的な傾向としてであって、小5生、中2生に対して一律にこれら

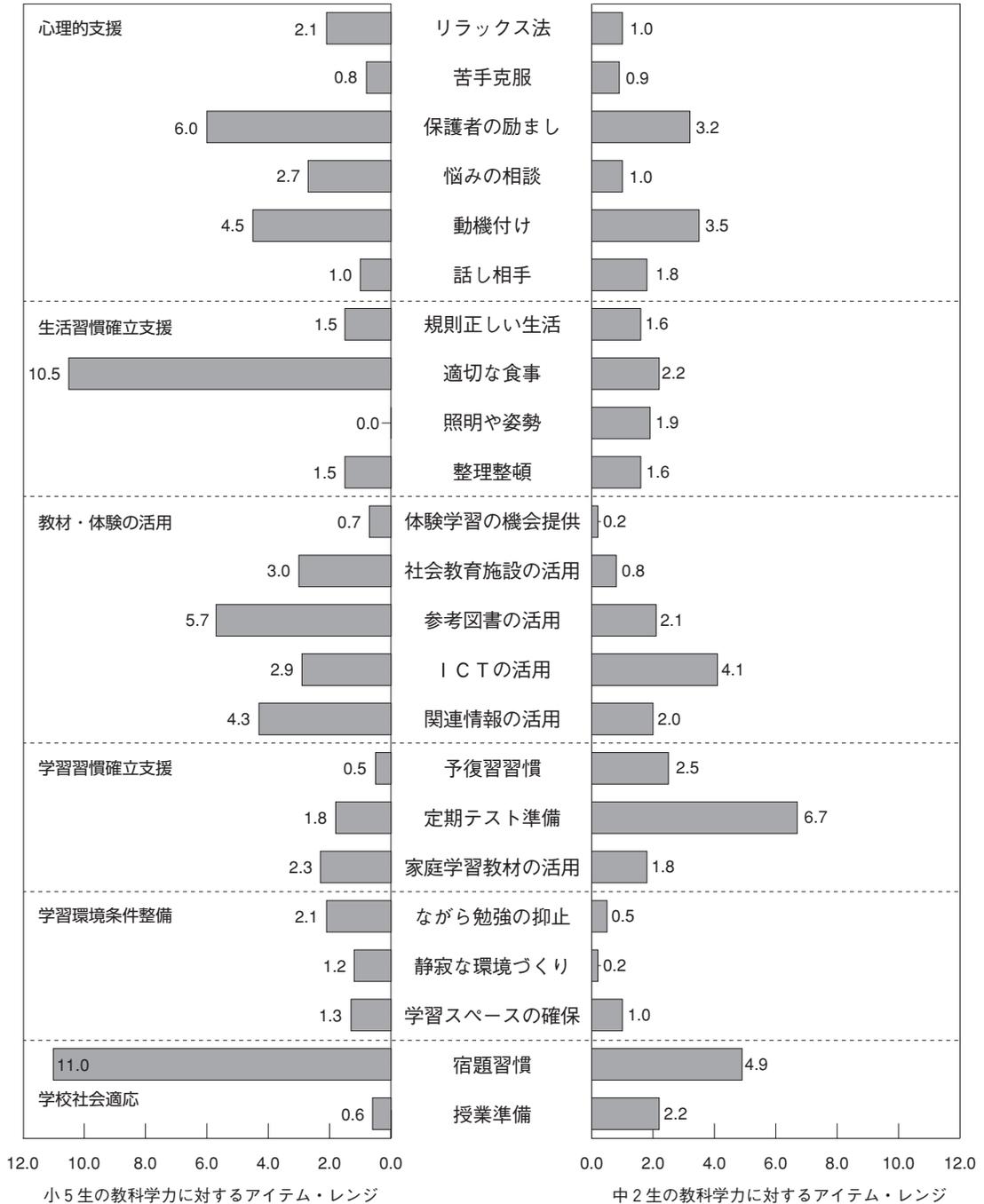
の因子を重視した働きかけを行うことが有効と考えることはおそらく早計であろう。とくに小5生段階に比べて中2生は、学習をめぐる意識やスキルが多様化しており、個別の状況や発達段階に応じた働きかけの大切さが増していると考えられる。

図表 3-2-7 家庭学習支援力各因子の子どもの家庭学習力各カテゴリーへの影響度

家庭学習力カテゴリー ／含む項目	子どもの家庭学習力									全体
	A. 豊かな読書	B. 達成感	C. 計画性	D. 自律心	E. 自己マネジメント	F. 社会的学び	G. 自主的学習	H. 成長意欲		
保護者の家庭学習支援力因子	<ul style="list-style-type: none"> 家庭読書 地域図書館の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの役立ち感 学びの達成感 学ぶ楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> 復習習慣 予習習慣 家庭学習計画 定期テスト準備 	<ul style="list-style-type: none"> 授業準備 宿題の遂行 整理整頓 ながら勉強の規制 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り・評価 学習方法の改善 学習内容の記録 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設の活用 体験学習への参加 検定試験への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> 挑戦する心 得意分野の伸長 発展的学習 	<ul style="list-style-type: none"> 可能性拡大の意識 進路展望 自己理解・評価 将来の夢や仕事 		
小5生保護者	因子1 心理的支援	1.1	1.4	0.7	1.5	0.6	1.5	0.6	1.7	0.9
	因子2 生活習慣確立支援	0.3	0.1	0.4	2.9	0.8	1.3	0.6	0.5	0.4
	因子3 教材・体験の活用	6.7	3.2	2.2	1.9	3.7	5.9	3.5	3.2	4.8
	因子4 学習習慣確立支援	0.6	3.0	4.7	0.9	2.3	1.0	2.0	2.9	2.6
	因子5 学習環境条件整備	1.4	1.3	0.3	2.5	1.5	2.8	1.8	0.5	1.9
	因子6 学校社会適応	1.4	2.9	2.8	6.7	0.9	0.4	1.6	2.0	3.2
中2生保護者	因子1 心理的支援	1.3	0.9	0.2	1.7	0.6	0.5	0.8	0.7	0.8
	因子2 生活習慣確立支援	0.6	0.3	0.2	1.5	0.7	1.0	0.2	0.9	0.7
	因子3 教材・体験の活用	6.3	1.2	0.7	1.1	1.3	3.9	2.0	1.8	3.1
	因子4 学習習慣確立支援	1.1	4.7	6.1	3.2	4.7	0.7	5.3	3.5	5.3
	因子5 学習環境条件整備	0.8	2.4	1.9	2.8	2.6	1.7	2.9	1.6	3.0
	因子6 学校社会適応	0.7	1.2	3.1	8.6	0.6	0.4	1.3	1.9	3.2

注) 数値化I類により、保護者の家庭学習支援力の各因子の子どもの家庭学習力の各カテゴリーに対する影響度(アイテム・レンジ)を示したものを。楕円は、家庭学習力の各カテゴリーに対して最も影響度の大きい家庭学習支援力の因子を表す。

図表 3-2-8 家庭学習支援力各項目の子どもの教科学力への影響度



注) 数量化Ⅰ類により、保護者の家庭学習支援力の各項目の子どもの教科学力に対する影響度(アイテム・レンジ)を示したものの決定係数=0.152(小5生)、0.130(中2生)。項目間の相関係数が大きいものが含まれると結果が不安定になるといふ多重共線性の問題を避けるため、相関係数が目安として0.5以上を示す項目(小5生・中2生ともに3組の項目が該当)の中で、小5生・中2生に共通する2組の項目のうち、目的変数との相関係数が低い片方の項目を除いて処理を行った(問5-1:「授業の予習」と問5-2:「授業の復習」のうち、問5-1を除く。および問5-15:「ながら勉強の抑止」と問5-16:「誘惑に打ち克つ心」のうち、問5-15を除く)。(なお、小5生では、問5-10:「保護者の励まし」と問5-11:「悩みの相談」、中2生では、問5-3:「宿題習慣」と問5-4:「定期テスト準備」も相関係数が0.5以上の項目となっている。しかし、これらについて同様な処理を行ってみた結果、上記に示したものとほとんど傾向が変わらない数値が得られたことを記しておく。)

**2 個別の項目を見ると、小5生では「宿題習慣」や「適切な食事」、
中2生では「定期テスト準備」と「宿題習慣」の働きかけの影響が大きい**

最後に、保護者の家庭学習支援力の各項目の子どもへの影響を見ておこう。図表3-2-8は、家庭学習支援力の各項目の子どもの教科学力への影響度を示したものである(これに対して、前で見たと図表3-2-7や図表3-2-8は、保護者の家庭学習支援力の各因子に含まれる項目の合計スコアの影響度を示したものである)。項目を個別に見ると、小5生では、「宿題習慣」確立と「適切な食事」の働きかけの影響が顕著に現われており、中2生では、「定期テスト準備」と「宿題習慣」確立の働きかけの影響が大きい。小5段階では、やはり中2段階と同様、宿題をきっちりやり遂げるような働きかけが大切であるとともに、「適切な食事」への配慮がより重要であることがわかる(この項目の具体的な設問内容は「できるだけ栄養のバランスのよい食事をとらせるようにしている」である)。ただし、周知のように、「適切な食事」を与えさえすれば、この項目の肯定群と否定群との間で現われているような差が解消できると考えることは一般にできない。このことは他の項

目についても同様である。なぜなら、ある項目の影響の度合いには、その項目に関わる背景要因の複合的な効果が反映しているとみなければならないからである。「適切な食事」の場合、肯定群と否定群との間で子どもに現われている差は、「適切な食事」による①子どもへの生理学的な効果がむろん考えられるが、それだけでなく、②食事が毎日きちんと摂れるような生活習慣が確立していること、加えて、③適切な食事と規則正しい生活に配慮するような家庭の文化的背景等が複合的に反映した結果と考えられる。

図表3-2-8は、保護者の家庭学習支援の働きかけの影響を子どもの教科学力について見たものであるが、家庭学習力については、小5生に対しては、「保護者の励まし」「整理整頓」「宿題習慣」などの項目の影響が大きい。他方、中2生に対しては、「予復習習慣」「体験学習の機会提供」「ながら勉強の抑止」などの項目の影響が大きく現われている(図表は省略)。

おわりに

以上のように、保護者の家庭学習支援の働きかけは、項目による影響度合いの違いはあるものの、子どもの教科学力や家庭学習力により影響を及ぼしていることが確認できた。家庭学習の充実を保護者と学校の連携で進めていくにあたって、子どもに対してどのような働きかけが望ましいのかを両者で共有しておくことは大切であろう。今回のような調査項目を子どもに対する働きかけの一つのモデルとして保護者の自己点検や啓発に活用していくことが考えられる。

家庭の教育力の充実に関して考えるときやはり忘れてはならないことは「格差」の問題である。家庭学習支援力の子どもへの影響の分析においても、項目が及ぼす影響の「背景要因」ということにも一部に触れたが、保護者の家庭学習支援力の発揮についても保護者の社会経済的・文化的背景要因にそのパフォーマンスが少なからず規定されていることは間違いない。この「格差」の問題の克服に、公教育がどのように貢献しうるかは、これ自体調査研究によって明らかにされていくことが期待されるテーマである(最近の研究成果としては、お茶の水女子大学・Benesse教育研究開発センター共同研究『教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書』(2009年3月26日刊行)がある)。今回の調査研究においては、「格差」問題克服への貢献を直截的に目的に掲げているわけではないが、保護者のどのような働きかけが子どもにより影響を及ぼすのかについてデータの裏付けのある客観的な情報を指針として提供し、広く活用に賦していくことは、「格差」問題への対処の一つとして意味のないことではないであろう。子どもに平等に教科書が配付されることが、意味のないことではないと同様である。まだ端緒的な研究の域を出るものではないが、活用に向けて検討していただければ幸いである。